

Ⅲ. 診療科の活動状況

1. 総合内科

1. 概要 特徴、特色

総合内科は2012年正式にスタートした新しい病棟です。複数の科にまたがる疾患を持つ患者様や、診断が困難な患者様、高齢の患者様などを集中的に担当することでより質の高い医療を提供すること、そのことにより内科のそれぞれの専門家が専門分野で力を発揮できるように援助すること、そして初期研修医の教育を行うこと、が当病棟に期待されている役割です。一言で言えば、「あらゆる患者様に対応する」という気概を持って病棟診療に当たっています。2012年スタッフは5名(責任医師、後期研修医4名)で運営しました。血液内科医の協力も得ながら、血液疾患の診療や癌化学療法の経験も重ねています。神経疾患や膠原病の診療についても、各専門家の協力を仰ぎながら行っています。癌・非癌患者様の終末期に対応することも多く、倫理的問題への対応力をさらに深めることが課題だと思います。緊急入院も多く、さらに病棟内に内科ICUがあるため、ERからの入院への迅速な対応や急性期の管理も行っています。

2. スタッフ

科長 忍 哲也

日本内科学会総合内科専門医

日本プライマリ・ケア学会認定医

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

医員 久保地美奈子

医員 山田 歩美

日本内科学会認定内科医

医員 倉本 崇光

医員 土佐 素史

医員 中島 昌典

3. 診療実績

(1) 外来診療：内科急患総合外来、各科専門外来、一般全科当直

(2) 病棟診療

2012年の主な受け持ち疾患

呼吸器系：234 腎・尿路系：78

脳・神経系：58 筋骨格系：37

内分泌代謝系：35 循環器系：33

耳鼻咽喉科系：32 血液免疫系：31

4. 教育・研修・研究活動

(1) 教育・研修

2012年 初期研修医：4名

後期研修医：のべ5名

「総合医・家庭医プログラム」「糖尿病内科プログラム」「循環器内科プログラム」における主な研修病棟です。

(2) カンファレンス

・新入院カンファレンス (毎朝)

・病棟カンファレンス (週1回)

2012年 学会発表

●土佐素史「当院で経験した髄液中ADA活性上昇から結核性髄膜炎と診断した4例」(日本内科学会関東地方会)

●倉本崇光「診断に難渋したEvans症候群合併血管免疫芽球型T細胞リンパ腫」(日本内科学会関東地方会)

●中島昌典「当院の中心静脈カテーテル関連血流感染症に対する取り組み」(日本感染症学会学術集会)

●山田歩美「非癌患者の在宅看取りを可能にする要因は何か」(日本プライマリ・ケア連合学会学術大会)

2. 循環器科

1. スタッフ

副院長 福庭 勲

日本内科学会認定内科医

日本循環器学会専門医

ICD

科長 金子 史

2. 外来診療

- 主たる疾患：高血圧・心不全・虚血性心疾患・不整脈・弁膜症・心筋症・閉塞性動脈硬化症など
- 手術適応症例は心臓外科外来（非常勤）にて診療
- ペースメーカー外来（月1回）

3. 入院治療

症例（DPC 病名別）

心不全 179 件、狭心症／慢性虚血性心疾患 179 件、閉塞性動脈硬化症 39 件、徐脈性不整脈 34 件、頻脈性不整脈 13 件、弁膜症 11 件、急性心筋梗塞 9 件、肺塞栓症 6 件、心内膜炎 6 件、心筋症 8 件、大動脈瘤（解離性含む）／腸骨動脈瘤 9 件、急性心膜炎 2 件、静脈・リンパ管疾患 5 件、高血圧性疾患 4 件、その他 11 件

4. 検査

心臓エコー検査：2784 件

経食道心エコー検査：7 件

ホルター心電図検査：736 件

トレッドミル運動負荷心電図検査：319 件

冠動脈 CT 検査：64 件

心臓カテーテル検査：229 件

5. 治療

- （1）経皮的冠動脈ステント留置術 47 件／形成

術 1 件

治療内訳

病変部位（重複含む）：LAD21 病変、LCX10 病変、RCA22 病変、CTO 病変：5 例、ISR 病変：2 例

（2）下肢血管拡張術 5 件

治療内訳

病変部位（重複含む）：CIA 1 病変、EIA 5 病変、SFA 2 病変、PTA 1 病変

（3）ペースメーカー移植術 26 件

不整脈：完全房室ブロック 5 例（DDD 4 件、VVI 1 件）、高度房室ブロック 9 例（DDD 7 件、VVI 2 件）、洞不全症候群 10 例（DDD 4 件、VVI 6 件）、心房細動 2 例（VVI 2 件）

（4）ペースメーカー交換術 6 件

（5）IVC フィルター留置 2 件

3. 呼吸器科

1. 概要 特徴、特色

人口10万対医師数の少ない埼玉県において、呼吸器診療を専らとする医師は極めて少ないです。しかしながら、肺癌を始めとした呼吸器疾患は減少どころか多くは増加しているのが現状です。そこで当院の立地している東浦和駅周辺地域において、地域の中核病院たるべく呼吸器科領域を幅広く診療しています。すなわち、ごく一般的な肺炎診療から、非結核性抗酸菌症や排菌のない結核症などといった感染性疾患や、慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息といった気道疾患、間質性肺疾患、肺癌などに対する診療を外来・病棟で展開しています。当院呼吸器外科とも連携を取り、肺癌手術のみならず、気胸や膿胸などといった炎症性疾患、胸腔鏡下肺生検なども依頼しています。

また、当院呼吸器内科の特色の1つはコメディカルスタッフとの協力です。慢性閉塞性肺疾患患者が中心ですが、リハビリ科とも連携して外来呼吸リハビリテーションを行っています。外来呼吸リハビリテーションでは、期間中に栄養士との面談を複数回組み込んで、多職種で患者の病状維持に努めています。

年に1回、地域住民に向けて閉塞性肺疾患あるいは気管支喘息について講習会を開催し、積極的に地域住民の健康活動を啓蒙することを志しています。

2. スタッフ

科長 原澤 慶次

身体障害者福祉法第15条指定医

病棟医長 佐藤新太郎

日本内科学会認定内科医

臨床研修指導医

日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医

3. 診療実績

(1) 外来診療

月曜から土曜まで常勤2名ならびに非常勤医師4名が予約外来を行っています。毎週木曜日午後15時に新患外来を開設します。地域の医療機関からの紹介患者を対象としています。

(2) 病棟診療

常勤医師3名により35～40床程度を担当しています。肺炎や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息などの気道疾患、間質性肺炎、肺癌化学療法などを扱っています。気管支鏡検査はおおむね入院とした上で施行しています。また、局所麻酔下胸腔鏡検査にも取り組んでいます。

(3) 手術

病棟での経皮的気管切開術を行っています。

4. 教育・研修・研究活動

(1) 教育・研修

呼吸器内科志望の後期研修医に対する教育・研修プログラムを展開しています。現在、後期研修医1名がプログラムに沿って研修中です。研修の一環として、他院呼吸器内科に1年間の外部研修を行うことを必須としています。

院内での研修のために、週に1回の割合で他職種合同の病棟カンファレンスを行っています。それにより複数の視点で診療を行うことを目指しています。また週に1回、呼吸器外科との合同カンファレンスを行い、手術症例の検討を行っています。

(2) 研究

2012年度学会発表実績

「胸部CTにて縦隔気腫の発症機序が示唆された1例」(日本内科学会関東地方会)

(3) その他

年に1回、気管支喘息あるいは慢性閉塞性肺疾患について市民向けの公開講座を開催しています。今年度も慢性閉塞性肺疾患についての公開講座を行う予定です。医師から疾患についての説明を行

うだけではなく、薬剤師からの使用薬剤の注意点やPT／OTからの簡単な運動療法、放射線技師による簡単な画像所見、栄養士からの説明、看護師からの禁煙指導など、コメディカルスタッフからの説明も多く取り入れています。

4. 消化器科

1. 概要 特徴、特色

当院消化器内科は、日本消化器病学会関連施設・日本消化器内視鏡学会指導施設として、地域に密着した急性期病院の消化器内科の役割を果たすべく、診療に当たっています。消化器専門外来はもとより、当院の1次2次を中心とした救急車搬入台数は年間3700台に及び、消化管出血や黄疸を主訴とする患者が数多く来院するため、救急医療において消化器内科医師の診療をお受けになる方はたいへん多くいらっしゃいます。地元の開業医の先生方とも連携し定期的に、地域医療懇談会を開催し、消化器専門科として紹介患者の受付や、開業医の先生方への紹介も積極的に行っています。消化器内科では上部消化管内視鏡検査（5,722件 2012年実績）下部消化管内視鏡検査（2,288件 2012年実績）、ERCP、内視鏡治療を行っています。大腸ポリープや早期癌でも、適応があると診断されれば内視鏡的粘膜切除術（427件 2012年実績）など、侵襲の少ない治療を積極的に行っています。最近では内視鏡的乳頭括約筋切開術（47件 2012年実績）、超音波内視鏡検査、にも積極的に取り組んでいます。消化器専門外来においては消化性潰瘍、炎症性腸疾患、肝疾患、消化器癌などの慢性期管理を行っています。特に最近はウイルス性肝炎のインターフェロン治療を積極的に行っています。消化器癌診療では診断はもちろんのこと、胃癌及び食道癌の内視鏡的粘膜下層剥離術（21件 2012年実績）などの内視鏡治療、手術不能例への化学療法、緩和医療にも力を入れています。重症急性膵炎や潰瘍性大腸炎で血液浄化療法が必要になる場面では、透析担当部門ともスムーズに連携して治療に当たっています。埼玉協同病院の医局は全科の医師から構成されているため、手術の必要な症例の方には、外科医との相談も行いやすく緊密な連携をとって治療に当たっています。あら

ゆる消化器疾患患者の外来・病棟主治医として活躍できる消化器内科医を育成することを目指して医師の育成も行っています。

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本消化器学会関連施設

2. スタッフ

科長 福本 顕史
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓学会肝臓専門医

院長 増田 剛
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本プライマリ・ケア学会認定医

院長補佐 高石 光雄
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会専門医

内科部長 小野未来代
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会専門医・
指導医

内科副部長 忍 哲也
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本プライマリ・ケア学会認定医

医員 守谷 能和
日本内科学会内科認定医
日本消化器内視鏡学会専門医

医員 田中 宏昌
日本内科学会認定内科医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本がん治療認定医機構認定医

医員 久保地美奈子

非常勤 大石 克己

3. 検査・処置実績 (次頁)

4. 教育・研修・研究活動

当科では標準的な上部下部消化管内視鏡検査、ERCP、治療内視鏡を行うことができ、あらゆる消化器疾患患者の外来・病棟主治医として活躍できる消化器内科医を育成することを目指しています。また内科医である以上、消化器以外の症候や疾患を持つ患者を診療する場面も少なからずあるので、総合的力量を向上させる目的で50～100床規模の県内拠点病院での研修を義務づけています。

消化器内科実績 (2002年1月～2012年12月)

検査・処置		02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年
アンギオ	腹部血管造影	169	172	263	240	101	22	21	16	18	18	15
	(TACE、TAI) 肝動脈塞栓療法	109	76	71	70	31	58	62	50	44	62	59
上部内視鏡	上部内視鏡検査	4859	4804	4341	3918	3976	4946	4753	5915	5994	5850	5561
	※止血 (内視鏡検査に含まれる重複・入院のみの件数)	46	46	43	28	47	41		32	43	56	59
	EMR-ESD (胃上部消化器)	32	46	24	41	28	50	48	47	47	24	42
下部内視鏡	下部内視鏡検査	1495	1305	1219	1048	1242	1653	1585	1982	1992	2247	2280
	※止血 (内視鏡検査に含まれる重複・入院のみの件数)	30	56	62	17	9	12		27	10	6	8
	EMR-ESD (大腸下部消化器)	289	274	308	291	268	318	337	409	424	405	427
食道内視鏡	EIS (食道静脈瘤硬化療法)	2	1	9	3	2	2	1			4	8
	EVL (食道静脈瘤結紮術)	3	7	17	17	12	13	4	9	6	13	12
胆道系	ERCP (内視鏡的逆行性胆道膵管造影法)	40	78	51	65	31	38	17	21	35	42	34
	EST (内視鏡下での括約筋切開及び乳頭切開)	4	24	39	32	21	23	28	33	36	36	47
	ENBD, EPBD, 採石等 (胆道へのその他の内視鏡的処置)	11	5	10	16	22	67	65	55	56	109	100
	PTCD, PTGBD, PTGBA (胆道へのその他の経皮的処置)	36	50	34	29	14	34	20	25	24	34	18
	PEG造設 (内視鏡的胃瘻造設術)	41	53	56	43	52	65	55	77	80	69	70
	PEG交換 (胃瘻チューブ交換)	48	75	91	90	84	96	107	135	168	161	142

処置	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年
早期胃腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術	32	46	24	39	22	35	31	22	23	2	13
早期胃悪性腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術				2	6	15	17	25	24	11	21
早期食道悪性腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術										9	8
大腸ポリープ (良性・悪性) 内視鏡的切除術	289	274	308	291	268	318	337	409	424	406	427
ラジオ波焼灼術						1	7	5	4	4	3
件			5	4		1	9	10	8		
人			5	1		1	9	8	6		
検査		2	5	3	4	7		2	1		5
肝生検		6		3	1			3	1		1
その他生検		4		7		1			4		1

5. 小児科

1. 概要 特徴、特色

当科は川口市の入院設備を備えた主要な小児科として大きな役割を担っています。他院からの紹介も多数受け、川口市小児夜間救急診療体制で一次救急と二次救急も担当しています。小児の common disease を中心に他科領域とも連携し、幅広い疾患に対応しています。日本小児科学会の定める専門医研修施設に指定されており、小児科医の育成にも取り組んでいます。当院産科は分娩数が多く、新生児疾患についても一定対応していますが、NICUを併設していないため、重症な新生児対応については、近隣のNICUへ依頼しています。地域周産期センターと連携して産科クリニックからの軽症新生児疾患の受け入れも行っています。

2. スタッフ

部長 和泉 桂子

日本小児科学会認定小児科専門医

医長 細谷 通靖

日本小児科学会認定小児科専門医

PALSprovider、NCPProvider

医員 平澤 薫

日本小児科学会認定小児科専門医

PALSprovider、NCPProvider

医員 藤田 泰幸

3. 診療実績

(1) 外来診療

午前的一般外来、午後の乳児健診・予防注射・専門外来を行っています。近医からの紹介患者、救急搬入、時間外の急患者は随時受け入れています。毎週金曜日は川口市の小児救急の夜間当番医として1次救急、2次救急を担当しています。2012年度は土曜日の一般外来は医師体制上、

2011年度下半期に続き休止しました。

専門外来として、アレルギー・神経発達・心理発達・腎・循環器を行っています。アレルギーに関しては気管支喘息・アトピー性皮膚炎などへの対応の他、食物アレルギーの負荷試験の入院、外来負荷などにも対応しています。

乳児健診は、延べ人数は減少傾向ですが、引き続き多職種（医師、看護師、保育士、管理栄養士）の協力を得て、育児支援にも力をいれた形で継続しています。予防接種は近年接種する種類・回数増加に伴い、延べ人数は増加しています。また同時接種（1回4本まで）にも対応しています。

「統計」

- 小児科外来患者数 年間 1万9988人（小児科紹介患者数 年間 467人）（疾病割合は図1）
- 川口市小児夜間救急（一次および二次救急） 毎週金曜日 年間 1159人

乳幼児健診

- 1ヵ月、3-4ヵ月、6-7ヵ月、9-10ヵ月、1歳、1歳半健診 合計 年間 2292人
- 保育所健診、3歳児健診（市の集団健診）、学校健診
- 予防接種 年間 5465人

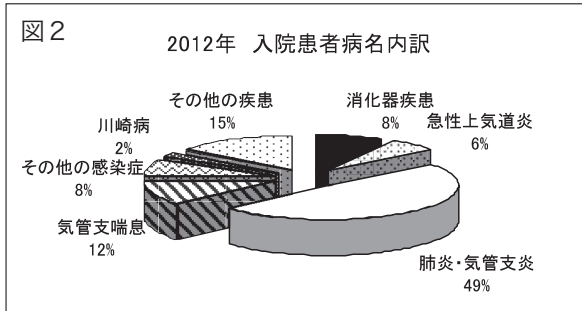
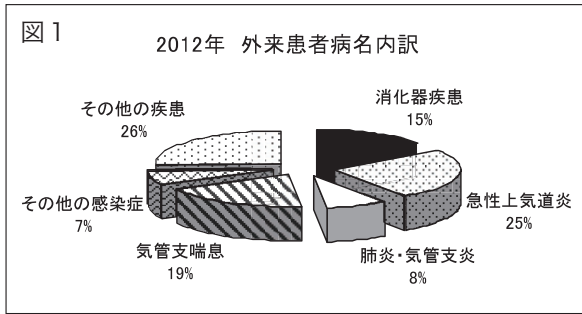
(2) 病棟診療

- 小児科入院ベッド数 12床、小児科入院患者数 年間 397人
- 産科分娩数 年間 540人、早期新生児疾患入院数 年間 98人

入院患者の内訳としては気道感染症（肺炎、気管支炎、上気道炎など）が多く占め、気管支喘息は年々減少傾向となりました。尿路感染症が8名と例年に比べ多かったです（図2）。

(3) 外部活動

園医として担当する保育園が7園、校医として



担当する小学校が木曽呂小学校、差間小学校の2校あり、学校健診・保育所健診を行っています。また市の3歳児健診も輪番で担当しています。

4. 教育・研修・研究活動

(1) 教育・研修

当院の初期研修プログラムに準じて、初期研修医3名が小児科の研修を行いました。

カンファレンスとしては、入院患者の病棟カンファレンス(週1回)、乳児健診カンファレンス(週2回)、アレルギーカンファレンス(週1回)、周産期カンファレンス(月1回)、文献抄読会(週1回)を定期的に行っています。

(2) 研究

学会研究会活動(発表)

- 2012年7月9日 日本周産期・新生児医学会
平澤薫
「IgG型抗M抗体により新生児溶血性疾患および寒冷凝集反応擬陽性を呈した1症例」
- 2012年9月16～17日 全日本民医連小児医療研究会 細谷通靖
「当院における予防接種の取り組み」
- 2012年9月7～9日 日本小児心身医学会学術集会 藤田泰幸

「過換気症状の改善を目的として入院したが結果的に症状悪化し転院を余儀なくされた1例」

- 2012年12月12日 川口医師会小児科部会症例検討会 平澤薫

「軽症胃腸炎関連けいれんの経過中に尿閉を来した幼児例」

- 2013年2月16日 日本小児科学会埼玉地方会 平澤薫

「軽症胃腸炎関連けいれんの経過中に尿閉を来した幼児例」

- 2013年3月27日 川口医師会小児科部会症例検討会 細谷通靖

「RSウイルス感染によるけいれん重積型急性脳症の1例」

(3) その他

王子生協病院・家庭医療学開発センターの家庭医研修医3名が小児科研修を行いました。

院内うぶごえ学級(両親教室)の講師を月1回実施しました。

川口市医師会症例検討会の当番幹事を行いました。

6. 外科

1. 概要 特徴、特色

昨年は消化器がん、乳がん、肺がんを中心に約630件（うち全身麻酔540件、緊急手術100件）の手術がありました。現在は腹腔鏡手術に力を入れており、1995年より胆石を中心に開始。現在年間約100例の腹腔鏡下の胆石手術を行っています。さらに大腸、胃に対する腹腔鏡手術症例も徐々に

3. 診療実績

(1) 外来・入院診療

外来患者数

2012年1月	2012年2月	2012年3月	2012年4月	2012年5月	2012年6月	2012年7月
1,238	1,324	1,273	1,218	1,257	1,200	1,272
2012年8月	2012年9月	2012年10月	2012年11月	2012年12月	合計	
1,177	1,125	1,321	1,300	1,273	8,782	

増加、昨年の実績で大腸がん5割、虫垂炎9割が腹腔鏡下での手術となっております。

2. スタッフ

院長補佐	井合 哲
	日本外科学会外科専門医・指導医
技術部長	市川 辰夫
	日本外科学会外科専門医・指導医
外科技術部長	長 潔
外科部長	井上 豪
	日本外科学会外科専門医
医長	浅沼 晃三

入院医療の実績

傷病名	件数	入院目的のうちわけ				入院経路			在院日数		
		診断 検査	繰り返し 計画入院	その 他	手術 (再掲)	紹介 あり	緊急 入院	救急 搬送	手術 なし	手術 あり	総計
肺の悪性腫瘍	14		1	13	12	2			10.5	14.9	14.3
気胸	10			10	8	7	8		3.5	9.0	7.9
食道の悪性腫瘍（頸部を含む）	13	1	4	8	2	2	2		17.0	38.0	20.2
胃の悪性腫瘍	75	1	28	46	35	33	9	4	9.6	40.9	24.2
大腸（上行結腸からS状結腸）の悪性腫瘍	191	8	100	83	63	54	18	9	4.8	28.0	12.4
直腸肛門（直腸・S状結腸から肛門）の悪性腫瘍	169	4	116	49	34	76	17	4	4.4	30.9	9.8
肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む）	19	5	2	12	11	6	1		6.0	24.4	16.6
膵臓、脾臓の腫瘍	15	3	2	10	6	5	4		11.3	41.8	23.5
小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む）	18	2		16		3	1		2.7		2.7
虫垂炎	66			66	48	21	51	7	5.6	6.1	6.0
鼠径ヘルニア（15歳以上）	107			107	105	31	3	1	5.5	6.6	6.5
閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	24			24	23	6	10	2	13.0	13.3	13.3
ヘルニアの記載のない腸閉塞	63			63	11	12	50	12	9.8	28.8	13.1
胆嚢疾患（胆嚢結石など）	34			34	31	8	2		3.7	8.7	8.3
胆嚢水腫、胆嚢炎等	92			92	85	25	14	6	7.9	10.6	10.4
胆管（肝内外）結石、胆管炎	10			10	6	2	5	2	17.3	20.7	19.3
その他の真菌感染症	21		1	20	3	8	6	1	8.7	32.7	12.1
その他の傷病	126	4		122	62	39	69	15			
総計	1067	28	254	785	545	340	270	63	7.4	18.2	12.9

日本外科学会外科専門医
 日本内科学会認定内科医
 日本消化器内視鏡学会専門医
 日本呼吸器外科学会呼吸器外科
 専門医
 日本がん治療認定機構がん治療
 認定医

医員 重吉 到

医員 佐野 貴之

日本外科学会専門医

医員 栗原 唯生 (外部研修中)

日本外科学会専門医

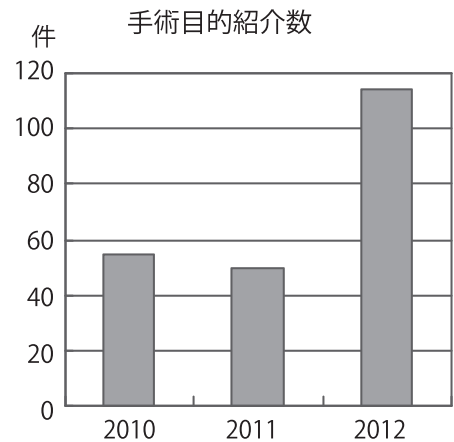
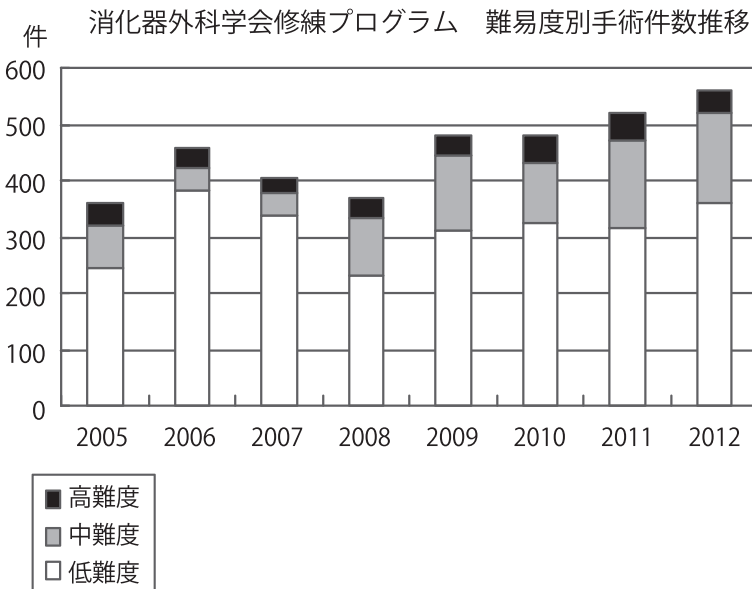
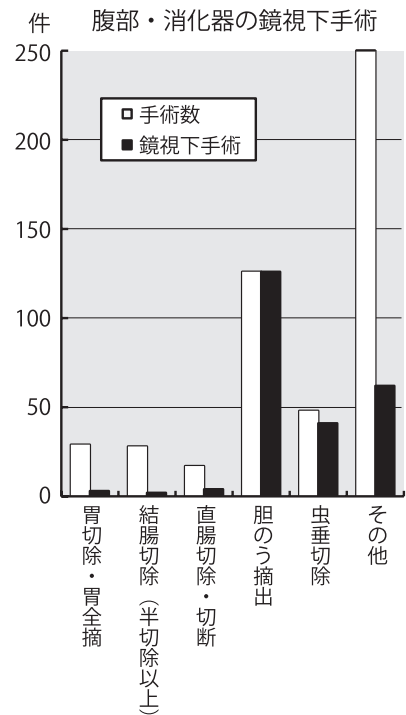
4. 教育・研修・研究活動

- 日本外科学会専門医精度修練施設
- 呼吸器外科学会呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度関連施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設

(2) 手術

手術部位	入院	外来
消化管・腹部	499	
呼吸器	34	
末梢血管	3	
頭頸部・体表・内分泌	7	3
小児外科	6	
その他	22	
計	571	3

腹腔鏡手術実施件数・割合	手術数	鏡視下手術	鏡視下割合	補足
胃切除・胃全摘	29	3	10%	
結腸切除 (半切除以上)	28	2	7%	
直腸切除・切断	17	4	24%	
胆のう摘出	126	126	100%	開腹移行 7
虫垂切除	48	41	85%	
その他	251	62	25%	
計	499	238	48%	



7. 乳腺外科

1. 概要

日本において女性の癌罹患率で乳癌が1位となっており、14人に1人が乳癌に罹患しています(2008年データ)。また、社会においても家庭においても重要な役割を果たしている40歳から50歳の年代にもっとも罹患率が増えています。乳癌の治療は手術だけではなく、薬物療法、放射線療法と複合的に行っていくため、通院頻度や金銭面での負担がかかってきます。

自宅近くでも安心して治療が受けられるように、当院で乳腺外来を立ち上げ、診療を行っています。

2. 紹介

乳腺疾患に必要な設備を整え、乳腺疾患の精査から治療まで行っている。特に乳癌患者様の診断から治療までかかわることにより、精神面のフォローや社会的背景を考慮しながら診療を行えるように、コメディカルとの連携を図っています。

* 当院に放射線治療施設がないため、放射線治療が必要な症例に対しては近医への紹介を行っています。

3. スタッフ

乳腺科医長 金子 しおり

日本外科学会外科専門医
日本乳癌学会認定医
がん治療認定医

非常勤 蒔田 益次郎

日本外科学会外科指導医
日本乳癌学会専門医

4. 検査・手術

検査

- ・マンモグラフィー
- ・乳房超音波
- ・MRI
- ・穿刺吸引細胞診
- ・超音波ガイド下乳房針生検
- ・画像ガイド下吸引式乳房組織生検 (ステレオガイド下、超音波下)

マンモグラフィー	1,373件
US	2,585件
細胞診	191件
針生検	254件
(マンモトーム)	(28件)
手術	45件

5. 教育・研修・研究活動

(1) 教育・研修

病棟カンファレンス	毎週月曜日	入院患者のカンファレンス
術前検討会	毎週木曜日	術式の検討、全身状態のチェックなど
乳癌治療カンファレンス	毎週水曜日	腫瘍内科医を中心に薬物療法の治療法(術前、術後、再発)を検討。患者対応や緩和ケアなども検討していく
画像カンファレンス	毎月1回	放射線技師・臨床検査技師とともに計画・検討
乳腺科診療チーム会議	毎月1回	乳腺診療の運営について他職種と検討していく
乳腺疾患コンサルト	毎月1回程度	がん研有明病院から乳腺専門医に来ていただき、日々の診療における疑問など直接コンサルトしている。

(2) 研究

- ①抗癌剤による催吐リスクマネージメント
- ②タキサン起因性末梢神経障害に対する弾性ストッキングによる予防効果の検証

8. 整形外科

1. 概要 特徴、特色

埼玉協同病院の整形外科は地域の基幹病院の一つとしてレベルの高い医療を提供できるよう、今後も益々診療体制を充実させてまいります。

診療体制は4人の常勤医師と、11人の非常勤医師が診察にあたります。慶應義塾大学からは腫瘍、脊椎、関節外科、上肢の専門医が勤務にあたり、それぞれの専門分野を中心に外来診療・手術を行っております。平成20年10月1日より、人工関節、股関節外科を当病院整形外科のメインテーマとしてかかげ、最新のコンピューター支援手術器械であるナビゲーション手術システムを導入しました。人工関節手術実績は平成20年:13件、21年:132件、22年:205件、23年:214件と増加が著しく、埼玉県内でも有数な症例数となっております。

骨粗鬆症、外傷一般等にも適時対応しておりますので、お気軽にご相談ください。

●日本整形外科学会研修認定施設

●日本リウマチ学会研修指定施設

2. スタッフ

部長 仁平高太郎
 日本整形外科学会専門医
 日本整形外科学会認定スポーツ医
 日本整形外科学会認定リウマチ医
 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
 日本リウマチ学会専門医

医長 横尾 冠三
 日本体育協会スポーツ医

医員 北村 類

医員 遠藤 大輔

非常勤 後藤 晋
 日本整形外科学会専門医
 日本整形外科学会認定スポーツ医

非常勤 尹 栄淑

非常勤 朝長 明敏

日本整形外科学会専門医
 日本整形外科学会リウマチ認定医
 日本整形外科学会脊椎脊髄病医
 日本リウマチ学会認定医

非常勤 森岡 秀夫
 日本整形外科学会専門医
 日本整形外科学会リウマチ認定医
 日本整形外科学会脊椎脊髄病医

非常勤 小粥 博樹
 日本整形外科学会専門医

非常勤 岡崎 真人
 日本整形外科学会専門医

非常勤 奥山 訓子
 日本整形外科学会専門医

非常勤 河野美貴子
 日本整形外科学会専門医

非常勤 丹藤 世身
 日本整形外科学会専門医

非常勤 川端 走野
 非常勤 海苔 聡

3. 手術実績 2012年1月～12月

総手術件数 727件

人工関節置換術・股関節	153件
人工関節置換術・膝関節	94件
UKA（単顆置換型人工関節置換術）	12件
脊椎・脊髄手術	
脊椎固定術	7件
脊椎除圧術	23件
椎間板ヘルニア摘出術	8件

4. 教育・研修・研究活動

モーニングカンファレンス（週3回）
 病棟カンファレンス（週1回）

5. その他 後期研修医が2名当科で研修しています。外傷を中心に年200例程度の手術を担当しています。股関節疾患と膝関節疾患に関して患者会がそれぞれ存在します。年に数回、患者会メンバーを中心に医師による疾患と理解を深めるための講演が行われています。

9. 産婦人科

1. 概要

埼玉協同病院に産婦人科が開設されて約30年となります。「地域が産み育て看取る」という言葉に象徴されるように地域周産期医療の一端を担い、また地域の女性の健康と人生を支えていく医療を目指してきました。

産科では、「家族で迎える出産」を大切にし、分娩室(立ち合い比率92.3%)をはじめ帝王切開(同89.1%)のご家族の立ち合いにも取り組んで来ました。しかし新生児への感染予防を目的とした面会制限が厳しく、そのため第2子以降の出産は他院を選択される妊婦様もいらっしゃいます。地域で求められている産科医療と安全性をどのように両立させていくのかは今後の課題でもあります。また、ここ20年程度で産科を取り巻く状況も大きく変化し、高齢出産も増加し、合併症妊娠の比率も高まりました(表1/図1)。社会的、経済的に困難を抱えたままで出産を迎える場合もあり、分娩後育児へのスムーズな移行ができるよう、様々なスタッフが日々頭を悩ませています。出生前診断については、母体血、羊水などによる胎児染色体検査は専門施設に紹介させていただいています。

しかし、それらもご紹介する前に誰のための、何の為の出生前診断なのかということをご夫婦ともよく話し合い検査に臨めるよう心がけています(表2)。早産を免れない状況となった場合は、NICUを有する周産期センターへの母体搬送も行います。埼玉は周産期医療の体制が非常に厳しく周産期センターも困難な中での受け入れとなっているため、適切な時期に搬送できるよう調整を心がけています(表3)。産科といえどもおめでたいことばかりではなく、望まない妊娠の中絶や流産、死産、障がいを抱えた赤ちゃんの出産など、予期せぬ状況に直面することもあります。しかしどの妊娠にも必ずいのちを授かった意味があることを伝えつつ、

妊娠した女性とその後の人生を前向きに歩んでいけるよう支援を行っています。

婦人科では、婦人科疾患の予防や診断、治療を行っています。子宮頸がんワクチン接種(131件)や子宮癌検診(4447件)などにも積極的に取り組み、早期に発見して治療することを重視しています。検査により悪性腫瘍が見つかることもあり、進行がんの場合は腫瘍専門病院や大学病院などへ紹介することが大半です(表4)。合併症の関係で当院での治療を希望された場合や治療困難で緩和を中心とした医療が必要な場合は当院で診療を継続していきます。子宮筋腫や卵巣腫瘍など良性と思われる病変の手術が婦人科手術の中心です。子宮頸部の異形成なども積極的に手術を行っています(表5)。生理痛が辛い、量が多くてすぐ貧血になってしまうなどの症状も、原因を調べながらライフサイクルにあわせた治療を提案するように心がけています(表6)。感染症、ホルモンのバランスの崩れ、更年期障害に対するホルモン補充療法や妊娠しづらいといった悩みにも応えられるよう診療を行っています。産科も婦人科も、順調な経過ばかりではありませんが、どんなときも患者様の人生に寄り添ってより良い解決策を提示し、患者様と話し合いながら治療方針を決定していくことを大切にしています。

【臨床実績】(次頁)

2. スタッフ

部長	市川 清美	日本産婦人科学会専門医 検診マンモグラフィー読影認定医師
副部長	榎本 明美	日本産婦人科学会専門医
医長	芳賀 厚子	日本産婦人科学会専門医 日本臨床細胞学会細胞診専門医
医員	伊藤 浄樹	日本産婦人科学会専門医

表1 分娩数と合併症の比較
(2002/2012年)

	2002年	2012年
分娩総数	955	538
帝王切開	179 (19%)	129 (24%)
合併症		
子宮筋腫	17	34
精神科	0	27
甲状腺	7	12
高度肥満	1	5
PIH	22	29
GDM	1	11

表2 出生前診断紹介数

羊水検査	12
超音波	12

表3 母体搬送

総数	12
23～27週	5
28～31週	4
32～34週	2
35週以上	1
搬送先	
川口市立医療センター	7
埼玉医科大学総合医療センター	3
帝京大学医学部附属病院	1
埼玉県済生会川口総合病院	1

表4 悪性腫瘍紹介数

子宮頸癌	7
子宮体癌	10
卵巣癌	8
その他	3
合計	28

表6 月経困難等に対する
ホルモン療法患者数

低用量ピル	91
ディナゲスト	38
GnRH	88
HRT	34

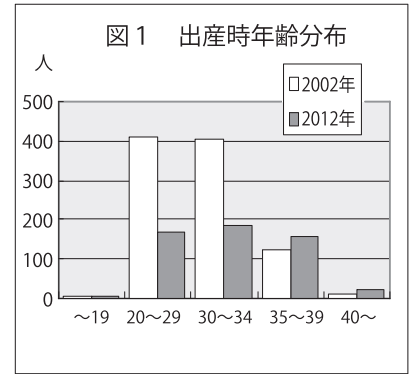


表5 婦人科手術数および内訳 (2012年)

入院・手術室施行 (帝王切開除く)	うち紹介 62
子宮筋腫	55
卵巣腫瘍・含内膜症 (うち腹腔鏡)	34(4)
異所性妊娠 (うち腹腔鏡)	10(3)
頸部異形成 (円錐切除術)	23
その他	50

医員 布施 彩
 新生児蘇生法「専門」コース
 非常勤 竹内 育代
 日本産婦人科学会専門医
 非常勤 前川 徹
 非常勤 上野 紀子
 日本産婦人科学会専門医
 非常勤 河原 且美
 理事長 神谷 稔
 日本産婦人科学会専門医

【教育・研究活動】

- 定例カンファレンス (周産期1回/月 術前1回/月 病棟1回/週 病理・細胞診1回/月)
- 9月6・7日 周産期医療研修会 参加 布施彩
- 学会発表〔7月7日 第81回 埼玉産科婦

人科学会 平成24年度前期学術集会)
 『自然妊娠による卵管間質部妊娠を繰り返した一例』 発表者 布施彩
 『内膜肥厚のない初期子宮体癌の2症例』
 発表者 芳賀厚子
 [11月10日 第82回 埼玉産科婦人科学会
 平成24年度後期学術集会]
 『当院で経験した Microcysticstromatumor の一例』 発表者 布施彩

【社会的活動】

- うぶごえ学級 じいじ・ばあば教室 (祖父母の育児支援) 命の授業
- 健康と平和への寄稿 (「更年期について」担当 伊藤浄樹)

10. 泌尿器科

1. 概要 特徴、特色

泌尿器科とは腎、膀胱、前立腺、男性生殖器に関する病気を治療する科です。現在の泌尿器科部長（林）が当院で泌尿器科を開設して20年になります。以降地域の泌尿器科疾患の治療に貢献してきました。20年の累積手術件数は約2500例です。特に近年は高齢化に伴い男性の前立腺肥大症、前立腺癌が多くなっています。そのため当科では前立腺の治療に重点を置いています。目標はさわやかな排尿を目指して治療に当たっています。また専門看護師による骨盤底筋体操、自己導尿の指導、問診も点数化し客観的に症状を把握して、できるかぎりガイドラインに沿った治療を心がけています。重症の患者さんは獨協越谷病院または帝京大学病院と連携を取って治療に当たっています。

2. スタッフ

部長 林 幹純

日本泌尿器学会専門医
透析療法専門医

非常勤 斎藤 恵介

日本泌尿器学会専門医

非常勤 八木 宏

日本泌尿器学会専門医

非常勤 永栄 美香

非常勤 丸山 修

日本泌尿器学会専門医

非常勤 久末 伸一

日本泌尿器学会専門医

非常勤 定岡 侑子

3. 診療実績

(1) 外来診療

外来は週6日で2診体制で行っています。1日の平均外来患者数は約60人です。午後は主に予

約外来と膀胱鏡、前立腺生検、尿路造影などの検査を行っています。

外来化学療法はホルモン抵抗性前立腺癌に対してドキタキセル、骨転移の症例はゾレドロン酸やデノスマブを投与、膀胱癌は術後の再発予防として外来で膀胱内注入を行っています。

尿路結石に対して体外衝撃波結石破碎術は症例を選んで外来で行っています。

(2) 病棟診療

病棟は主に手術の患者さんです。平均3～7人の入院です。その他に尿路上皮癌の化学療法、体外衝撃波結石破碎術、前立腺生検の患者さんを管理しています。体外衝撃波結石破碎術は年間110例、前立腺生検は120例です。

(3) 手術

体外衝撃波結石破碎術、膀胱瘻造設術、尿道ステント留置術、シャント術、包茎、精管結紮術は外来手術で行っています。

年間の手術件数は約120例です。毎週火曜日が手術日です。

昨年の手術内容は以下です。

腎（尿管）悪性腫瘍手術	5
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	1
尿管吻合術	1
膀胱結石摘出術（膀胱高位切開術）	1
膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 その他のもの	42
膀胱瘻造設術	2
尿道狭窄内視鏡手術	1
陰嚢水腫手術（交通性陰嚢水腫手術）	1
陰嚢水腫手術 その他	7
経尿道的前立腺手術	60
前立腺悪性腫瘍手術	12
RP-尿管ステント留置術	17

4. 教育・研修・研究活動

泌尿器科関連学会への参加、不定期ですが、年数回の勉強会を行っています。

11. 皮膚科

1. 概要 特徴、特色

協同病院皮膚科には常勤医2名、非常勤医6名が勤務しており、皮膚科としては県南最大規模の病院のひとつです。この8名で平日午前中と金曜日午後、月曜日夜間の一般診療を担当し、平日午後には手術や予約診療を行っています。

当科では通常の皮膚疾患をしっかり診断し治療することを皮膚科の基本方針として診療をしています。

診療疾患は多岐に渡るため、各種血液検査や病理検査に加えて皮膚エコーやMRI、CTなどの画像診断を有効に使い、まず確定診断を正確にすることを目標としています。治療は通常の内服療法、外用療法の外、手術療法や紫外線治療なども施行し、効果を上げています。

また外来にはQスイッチアレキサンドライトレーザーがあり、健康保険診療としては太田母斑や異所性蒙古斑に、自費診療としては老人性色素斑に著効しています。

基本的に健康保険診療で治療していますが、いくつかの自費診療を格安で取り入れており、患者QOL向上に有益と考えています。

2. スタッフ

部長 伊藤 理恵

日本皮膚科学会専門指導医

副医長 田中 純江

常勤医2名、非常勤医6名（大学からの派遣医3名含む）が勤務しており、皮膚科外来2～3診療体制を取っています。このうち6名が皮膚科学会認定皮膚科専門医です。加えて当院は皮膚科学会認定の専門医一般研修施設であり、今年当院で研修を終えた1名が2013年の専門医資格試験に臨む予定です。

3. 診療実績

●外来診療：平日午前中は2～3人体制で一般外

来を、金曜日午後と月曜日夜間には1診体制で一般外来を行っています。平日午後は予約制で診療、手術、処置、美容関係の自費診療などを行っています。

2012年の皮膚科のべ外来受診数は2万1519名であり、1日平均外来受診人数は76名でした。受診内容は湿疹アトピー性皮膚炎群、皮膚細菌感染症、真菌感染症、ウイルス性皮膚疾患、尋常性座そう、自己免疫性皮膚疾患、熱傷、各種爪疾患、良性悪性皮膚腫瘍など多岐にわたっています。

●手術：毎週月曜日、水曜日、金曜日の午後に行っています。手術件数は年間約330件で、局所麻酔下での手術が主体です。9割以上が日帰り外来手術ですが、入院手術も受け入れています。おもな内容は表皮嚢腫、脂肪腫、母斑などの良性腫瘍切除術が多く、陥入爪根治術、皮膚悪性腫瘍切除術などです。

●自費診療部門：大部分は一般診療中に施行していますが、イオン導入とケミカルピーリングは木曜日と金曜日の午後に予約にて施行しています。

- (1) アンチエイジングを目的としたレーザー治療(年間約270件)やイオン導入、ケミカルピーリング(年間約120件)、美白剤の処方などです。
- (2) 男性型脱毛症への内服治療
- (3) 円形脱毛症などに対する局所免疫療法(SADBE治療)
- (4) 陥入爪への超弾性ワイヤーによる矯正治療
- (5) ピアスホール作成などです。

4. 教育、研修

通常は水曜日の外来診療後にカンファレンスを行っています。

当院は皮膚科専門医の一般研修施設であるが、希望があれば初期研修医及び後期研修医の皮膚科研修も受け入れています。

12. 眼科

1. 概要

部長 堀 邦子

日本眼科学会専門医

非常勤 曹 圭徹

非常勤 河井 明佳

〈外来診療〉

2011年4月より、新患受付を含む一般外来診療を再開しております。新患、予約外患者の受付は、火一土曜日の午前8:00 - 10:00までです。月曜終日と午後は、完全予約制にて手術または特殊検査を含む外来診療を行っております。現在、常勤医1人体制ですが、週2回の外来診療を、帝京大学派遣の非常勤医師が担当しております。

診療の内容は、一般眼科としての幅広い眼科全般の診療（白内障・緑内障・糖尿病性網膜症・神経眼科）はもちろん、博士課程に学んだ経験を生かして、角膜疾患を得意としております。地域の病院として、疾患についての知識が少ない患者様にも、前眼部撮影装置、OCT等の結果を画像にて供覧しながら、疾患のイメージが掴めるよう噛み砕いて説明し、ご本人が疾患を理解した上で、積極的に治療に取り組んでもらえるよう心掛けています。

総合病院の眼科である利点を生かして、眼症状を初発症状として、耳鼻科領域、脳外科領域の疾患が疑われる場合には、CT、MRI等を速やかに撮像し、適格な治療に回せるよう努めています。

〈手術〉

2012年の手術種別件数は、表の通りです。月、木曜日の午後に、白内障手術を中心に行っております。また、不定期ですが、翼状片、眼瞼下垂、内反症といった外眼部小手術も行っております。規模的制約があるため、硝子体手術などより高度

水晶体再建術	215
眼瞼手術（下垂、腫瘍等）	4
結膜手術（翼状片、脂肪ヘルニア等）	3
涙管チューブ挿入術	3
涙点プラグ挿入術、涙点閉鎖術	37
後発白内障手術	44
網膜光凝固術	36
レーザー虹彩切開術	2
麦粒腫、霰粒腫手術	9

な設備が必要な患者様は、大学病院にご案内しております。

白内障手術に関しては、PEA装置としてインフィニティを導入しており、安全で、負担の少ない手術が可能になっています。眼内レンズは、より高いQOVが得られるよう、積極的に非球面レンズ、乱視矯正レンズを用いています。多焦点レンズの適応となる若年の患者様には、その選択肢も含めてご案内しています。

総合病院の眼科として、他科にかかりつけで何らかの全身合併症のある患者様の手術にも可及的に対応しております。また、近隣の開業の先生方からのご紹介患者様も積極的に受け入れております。ご高齢の方、合併症をお持ちの方には、入院での手術をお勧めすることが多いですが、患者様の背景によっては、ご希望に応じて日帰り手術も行っているほか、柔軟かつ質の高い対応を目指しています。

13. 耳鼻咽喉科

スタッフ

科長 滋賀 秀壮

外来

主としてこれに重点を置いております。約10年前より2診体制になり、疾患の処置が随分と楽になりました。東大病院の医局から1名、パートで来るのですが、その方々が毎日代わるのが、少々患者様にとっては不満のようですが、次回も同じ医師の診察をということで予約をしていく人もいます。

病棟

本当はマンパワーがあれば、どんどん入院、手術したいのですが、現状ですとどうしても点滴、安静のためということになってしまいます。今後の課題と思います。

手術

鼻茸切除術、局所麻酔の口腔内小腫瘍摘出、暴れる子どもの外耳道異物の全麻下摘出など、入院を要しないものに限られます。それ以外は大学病院、近隣の病院に紹介いたします。

発表

当科領域の疾患に密着したものが多く、読む人に理解しやすいようにと心がけております。

14. 精神科

1. 概要

埼玉協同病院に精神科が開設されたのは、1986年です。精神科非常勤医師1名の体制で始まり、1993年からは常勤化され約20年が経過しました。現在は精神科常勤医師2名、非常勤医師1名の体制となっています。

日本の精神医療は、歴史的に単科精神病院での入院治療を中心に展開されてきましたが、1970年代以降は地域の中で生活しながら治療を受けることが重要視されるようになってきています。その結果、地域の中に数多くの精神科クリニックが開設され、以前と比べ精神科医療は患者さんにとって大変利用しやすいものとなっています。その一方で、総合病院における精神科医療は大きく広がることはなく、むしろ最近では総合病院で働く精神科常勤医師数は先細りの傾向にあり、埼玉県南部地域でも常勤医師が複数いる病院は非常に少ないのが現状です。

当院は総合病院に開設された精神病床を持たない精神科として、以下のような特徴をもった医療を展開しています。

まず、第一に当院が地域の第一線の医療機関であることから、高齢者から若い方(概ね高校生以上)まで幅広い年齢層の患者を受け入れています。精神科入院医療を必要とするような重症例は受け入れることはできませんが、認知症、うつ病、不安障害、慢性期の統合失調症、アルコール依存症など幅広い疾患を受け入れています。

第二には、身体疾患の治療をしながら精神科医療も提供できることも特徴です。特に高齢期には身体疾患に加え、認知症やうつ状態の合併も多く、こころと体の問題を総合的に診ていくことで質の高い医療が提供できます。

第三には、最近では出産子育ての過程で精神的不調に陥ったり、あるいは精神疾患をもともと抱え

る中で出産子育てをする方も増えてきており、産婦人科、小児科などとも連携をとりながら生活を支えることも大切な活動となっています。

上記のような特徴を発展させるために、地域住民、他の医療機関、行政、地域の福祉施設などとの連携を強める活動も行っています。

2. 医師体制

部長 雪田 慎二

日本精神神経学会認定専門医
精神保健指定医

副医長 荻野マリエ

非常勤 堀内 慶子

3. 診療実績

- ・外来診療：月～金で再来1～2診体制。新患外来は別枠で実施。新患は年間約350例。
- ・精神科デイケア：月・水・金の週3回実施。
- ・リエゾン活動：身体科入院患者への精神科医療の提供。
- ・被ばく相談外来：週1回。被ばくによる健康問題の相談援助。

15. 病理診断科

1. 概要 特徴、特色

常勤医1名と非常勤医2名の病理医が診断を行っています。難しい症例は東京医科歯科大学より週1回指導をしていただき慎重に最終診断をしております。

細胞診断では日本臨床細胞学会で認定を受けた4名の細胞検査士とともに診断を行っています。特に婦人科細胞診では、産婦人科臨床医でもある細胞診専門医との緊密な協力の下に診断にあたっています。

2. スタッフ

常勤医

病理部長 石津英喜 日本病理学会専門医、
日本臨床細胞学会専門医

産婦人科病棟医長

芳賀厚子 日本臨床細胞学会専門医

非常勤医

北野元生 日本病理学会口腔病理
専門医

江石義信 日本病理学会専門医

3. 手術

検体数の推移

	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年
解剖数	18	15	13	16	14
生検数	6399	7257	7097	6948	6989
細胞診	7974	7947	7859	7460	6937

4. 教育・研修・研究活動

- 認定施設：日本病理学会研修登録施設、日本臨床細胞学会認定施設
- 病理科内での症例検討会：週1回
CPCは医局主催で年5回程度行われています。

- 東京医科歯科大学と協同し消化管間葉系腫瘍（GIST）の研究
- その他（外部研修生の受け入れ、学会、研究会、公開講座等の開催など）
- 第62回埼玉病理医の会を2012年10月19日（金）に埼玉協同病院教育研修センターで開催いたしました。

5. その他

当院の特徴として病理診断管理加算を算定するために病理診断以外の勤務を制限する体制はとっておりません。病理専門医であっても当直、外来、内視鏡検査などをしながら病理診断管理加算以上の貢献ができる勤務体制や、病理診断をしながら臨床能力も発展させ続けることのできる病理医の養成に努めています。

16. 糖尿病科

1. 概要 特徴、特色

糖尿病領域を中心とした専門的診療を行っています。1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病を含め、各種病態患者の診療を行い、健康寿命の延伸を治療目標にしています。糖尿病を併発している外科領域の患者の血糖コントロールについても、連携をしています。他の医療機関との連携もとって、紹介患者の診療にあたっています。

患者会活動も行っており、糖尿病教室、糖尿病協会発行の“さかえ”を読む会を行っており、コメディカルスタッフと協同して患者教育にも努めています。

2. スタッフ

糖尿病専門外来、糖尿病初診外来、はじめ外来、フットケア外来、外来栄養指導、糖尿病透析予防指導外来を行っています。

部長 村上 哲雄

日本糖尿病学会指導医

医員 高橋きよ子

日本糖尿病学会指導医

医員 島村 裕子

日本内科学会認定内科医

医員 関口由希公

日本糖尿病学会専門医

医員 中島 尚子

非常勤 清水 縁

日本糖尿病学会指導医

糖尿病学会認定研修指導医3名。糖尿病学会認定専門医4名。院内CDEJ（Certified Diabetes Educator of Japan）10名

3. 診療実績

（1）外来診療（患者数2012年4706人）

①糖尿病外来を予約外来として行っており、初

診外来で他の医療機関からの紹介患者、および院内からの依頼患者の診療にあたっています。また妊娠糖尿病患者、糖尿病合併妊娠の患者の管理も行っています。紹介数は34件、逆紹介は631件。

- ②糖尿病教育も含めての、“はじめ外来”を行っており、診察も並行して行い、合併症の評価もしながら指導しています。また、はじめ外来ではカンバセーションマップ(会話のための地図)を用いての患者教育、栄養指導、薬の指導も行っています。2012年は57件。
- ③インスリン導入は外来で行うことが多く、新規外来インスリン導入数は2012年104名でした。糖尿病外来でのインスリン使用者数は月平均557名です。またインスリン注射の手法の再チェックを必要時行っており、2012年201名行いました。
- ④GLP-1注射薬(ビクトーザ、パイエッタ)も25名導入しています。
- ⑤CSII(持続皮下インスリン注入療法)も行っています(導入1名)。
- ⑥CGMS(持続血糖モニタリングシステム)も血糖日内変動を詳細に把握できる点で優れており、外来で施行しており、新規導入は21名でした。
- ⑦フットケアも実施しており、足の管理、足病変の早期発見につとめています。フットケア外来新規登録者数は79名でした。2012年はのべ385名の指導を行いました。
- ⑧栄養指導は外来で月平均269名、2012年総計3231名に行っています(外来栄養相談)。
- ⑨糖尿病透析予防指導管理を行い、糖尿病腎症進展の防止に努めていますが、2012年10月より開始し、診察、看護指導、栄養指導を包括的に行い、2012年中では10名指導しました。
- ⑩糖尿病患者会、および日本糖尿病協会発行の“さかえ”を読む会を毎月・第4土曜日に行つて啓発を行っています。

(2) 病棟診療

- ①2泊3日の教育入院を行い、2012年12名でした。
- ②糖尿病コントロール入院にて食事療法、薬物療法、運動療法を含めて教育も行い、6名がパスに則りコントロールを行いました。
- ③糖尿病学習入院(1週間入院)は4名に行いました。
- ④CGMSは4件でした。
- ⑤局所陰圧閉鎖療法も必要時行っています。

4. 教育・研修・研究活動

(1) 教育・研修

- ①毎週1回糖尿病カンファレンスを医師、コメディカルスタッフで行っており、症例数は2012年68名であり、患者の日常生活環境、問題点などについて検討し、指導のポイントなどについて討論を行い、患者さんのQOL向上に努めています。
- ②毎月1回糖尿病事務局会議を行い、新しい情報の検討、診療業務の改善、向上につとめています。

(2) 研究

- ①糖尿病合併症進展因子についての検討
- ②糖尿病腎症の進展予防に対する、新しい糖尿病治療薬の効果についての検討
- ③その他(外部研修生の受け入れ、学会、研究会、公開講座等の開催など)

(3) 学会活動

日本糖尿病学会年次学術集会、日本糖尿病学会 関東甲信越地方会、糖尿病学の進歩

(4) 研究会活動

川口インクレチン研究会、川口カンファレンス